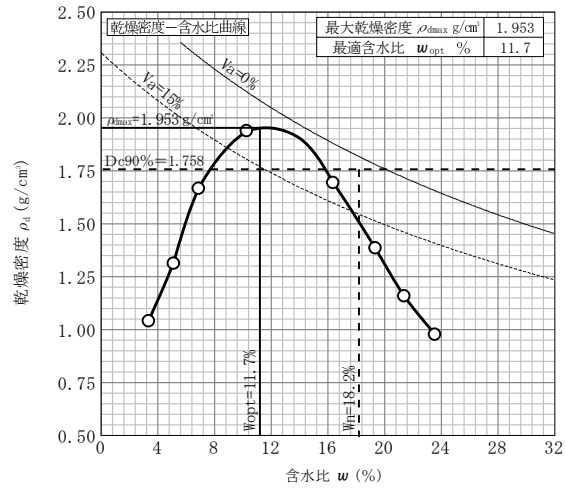


試験法 125 スレーキング性材料の三軸試験の
供試体作製方法(締固め・乾湿繰返し)

調査件名 SYSTEM21 最高級プロフェッショナル土質調査解析ソフト
長年の実績で信頼と安定したソフトを実現 試験年月日 2019年11月7日

試料番号 S1-1(3.00m~3.70m) 試験者 田中 誠二

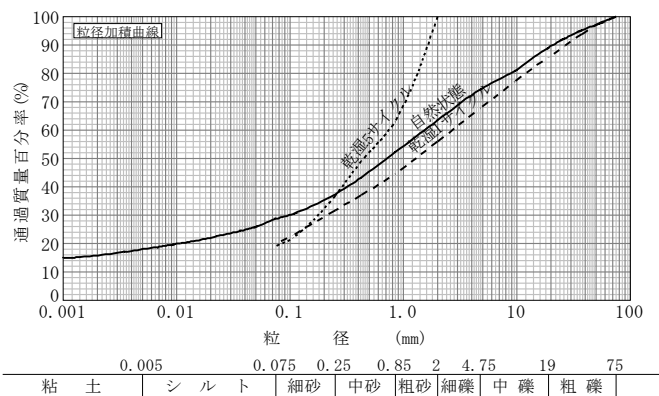
土質名称	砂質粘土質礫
土粒子の密度 ρ_s g/cm ³	2.715
自然含水比 w_n %	18.2
液性限界 w_L %	56.1
塑性限界 w_p %	30.5
塑性指数 I_p	25.6
スレーキング率 %	92.3
破砕率 %	45.4



I. 締固め試験	
締固め試験方法	B-b
最大乾燥密度 ρ_{dmax} g/cm ³	1.953
最適含水比 w_{opt} %	11.7
品質管理基準	Dc ≥ 90 %かつVa ≤ 15 %
決定乾燥密度 ρ_{d1} g/cm ³	1.758

II. 乾湿繰返し試験									
試験段階	自然状態	乾湿1サイクル			乾湿5サイクル				
モールド No.	A-1	A-2			A-3				
乾湿繰返しサイクル	0	0	1	0	1	2	3	4	5
m_{ai}	5133	12168	5290	12263	12477	12487	12512	12500	5387
m_{bi}	4525	11550	4451	11651	11651	11651	11651	11651	4518
m_c	1206	8230	1151	8324	8324	8324	8324	8324	1189
w_i	18.3	18.6	25.4	18.4	24.8	25.1	25.9	25.5	26.1
供試体の高さ H_{ai} cm	12.50	12.50	12.68	12.50	12.68	12.87	12.89	13.16	13.33
供試体の高さ H_{bi} cm	—	—	12.51	—	12.51	12.61	12.70	12.60	12.60

粒度試験(ふるい分析)	自然状態	乾湿1サイクル	乾湿5サイクル
75 mm通過質量百分率 %	100.0	100.0	
53	97.6	97.7	
37.5	95.2	93.8	
26.5	92.3	89.7	
19	89.2	85.7	
9.5	80.8	77.0	
4.75	74.4	67.7	
2	63.4	56.0	100.0
0.850	52.3	44.6	63.0
0.425	43.3	37.1	49.2
0.250	37.4	31.7	36.9
0.106	30.4	23.0	22.0
0.075	28.7	19.6	19.1



特記事項 品質管理における密度比92%はR I 計器を用いる場合の平均値であるので、試験の場合は密度比90%で供試体作製する。
粒度試験は必要に応じて沈降分析まで実施する。
この規格は、三軸試験方法にしたがって試験を行う際のスレーキング性材料の供試体作製方法
スレーキング率が概ね70%以上の材料を対象とする。
含水比 w_n (%)は試料分取後の含水比、若しくは現場における施工含水比とする。